自分の足跡を残す

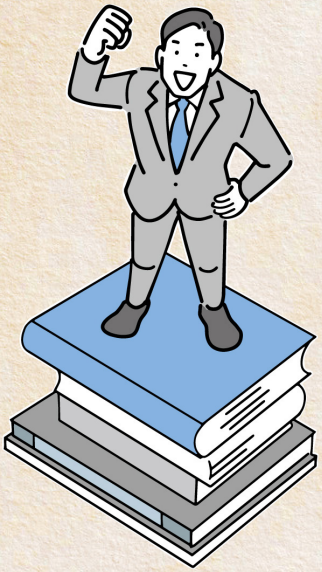
管理職研修や中堅職員研修でお話する項目の中で、「自分の足跡を残す」というものがあります。
私が３０代のころ上司が替わって、新しい上司が私に云った言葉で印象に残っている中のひとつに「君のこれまでの足跡はどんなものがある？」と問われたことでした。咄嗟のことだったのですぐに返事ができず戸惑いました。

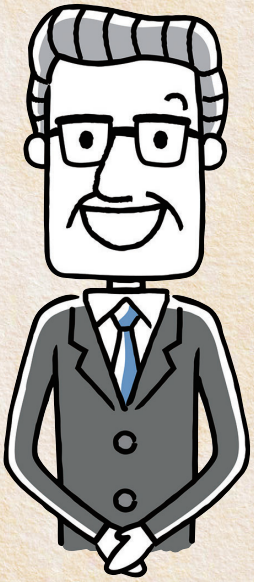
自分が担当した仕事、職務の中で、これまで先輩や同僚がやったことがない仕事の改革や改善、あるいは営業ならば新規得意先やルート、キーマンの開発や新商品開発のきっかけ、基礎となった市況報告や、これまで売れていなかった商品を、アイデアを持って飛躍的に伸ばしたとか！事務職なら事務効率の上がる手法やマニュアルを開発したとか、それぞれの担当部門や職場で、あのやり方は、あのシステムは、あの人が開発した、あの人が創ったというものがあるはずです。それがその人の足跡です。

どんな仕事でもそうですが、慣れてくると、そのことが、そのやり方が当たり前で改善や工夫を忘れて流されてしまうことがあります。そうならないように時には立ち止まって、このやり方が本当に良いのか？他にもっと楽に効率よく出来るやり方はないのか考えてみるのが大事だと思います。
先人や先輩がやってきたから、そのままやれば間違いがない、それ以上のものはないと思いがちですが、そうとは限らないというのが、これまでの経験の中で沢山あります。

更に、先の上司から「これからいろんな仕事に就いていくと思う、仕事のやり方や考え方、実績の中で、自分の足跡を残すといことを意識してやってみてはどうか！」「そうすればいろんな方向から物事を見る習慣がつき、自己紹介、自己PRの場面や昇進、昇格、職場の異動、転職の中で、自分の特徴、特色、実績が明確になり、自分を知ってもらえる、わかってもらえることに繋がっていく」と云われました。

特にリーダーは「足跡を残す」ということを意識しながら進めていくと、そのアイデア・取り組み姿勢・プロセス・達成の足跡は部下に響いていき、その流れは継承されていくと思います。
皆様方も沢山の足跡を残されていると思います。一度、職歴書としてまとめてみられてはいかがでしょうか。いざという時に使え、役に立ちます！





長嶺　堅二郎